

焼岳の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺では地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。

火山性微動の発生等、直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 23 年 3 月 31 日に噴火警戒レベルの導入に伴い噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警戒事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2、図 3、図 4、図 5、図 6）

7 月 26 日から 28 日（期間外）及び 4 日から 5 日にかけて実施した現地調査では、北峰南斜面、北峰東斜面、焼岳北斜面、焼岳展望台南斜面、及び岩坪谷の地表面温度分布¹⁾に特段の変化はみられませんでした。北峰東側噴気孔、昭和 37 年噴火跡噴気孔、及び焼岳展望台の噴気孔の最高温度は、それぞれ約 103℃、約 95℃、約 39℃で、前回（2008 年 6 月 7 日、それぞれ約 107℃、約 93℃、約 39℃）と比べて特段の変化はみられませんでした。また、各噴気孔では弱い噴気が認められました。

1) 赤外熱映像装置により観測しています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震活動（図 7、図 8※）

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活動が活発化しましたが、その後、地震活動は低下してきています。

火山性微動や低周波地震は観測されませんでした。

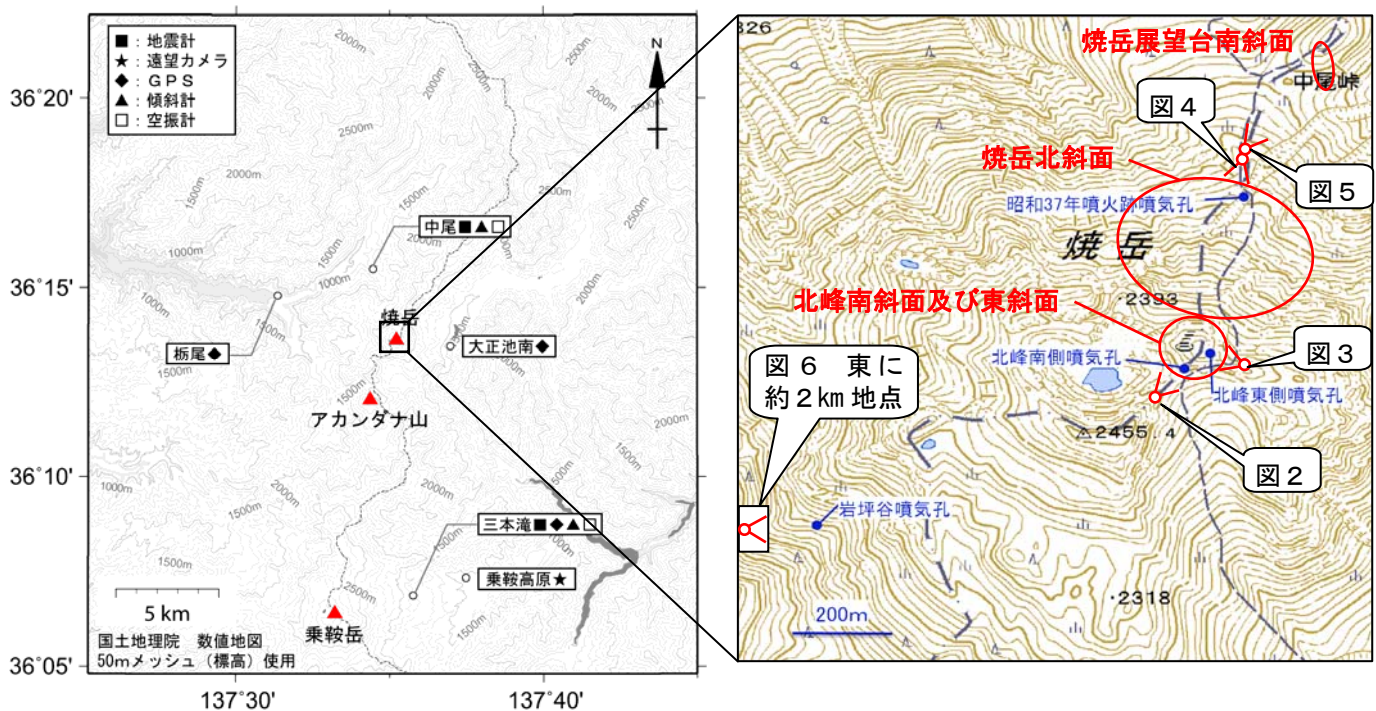


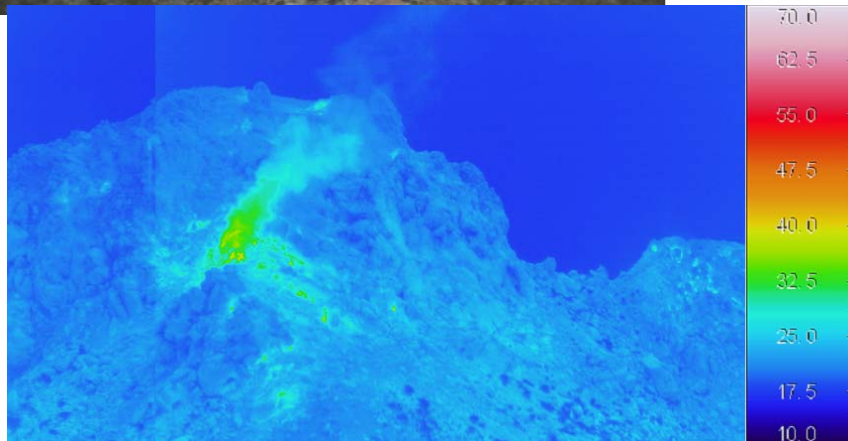
図 1 焼岳 気象庁の観測点配置、噴気孔位置、及び赤外熱映像装置観測位置¹⁾

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月分）は平成 23 年 10 月 6 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

2011 年 8 月 5 日 13 時 00 分撮影



2008 年 6 月 7 日 10 時 02 分撮影

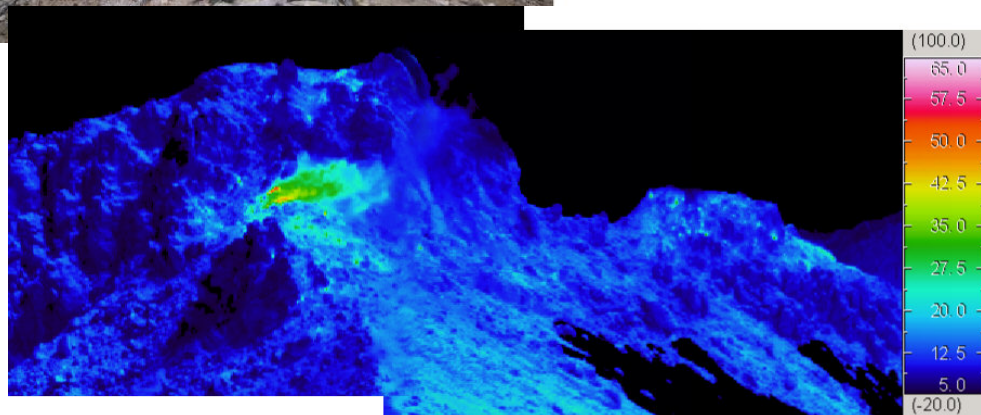
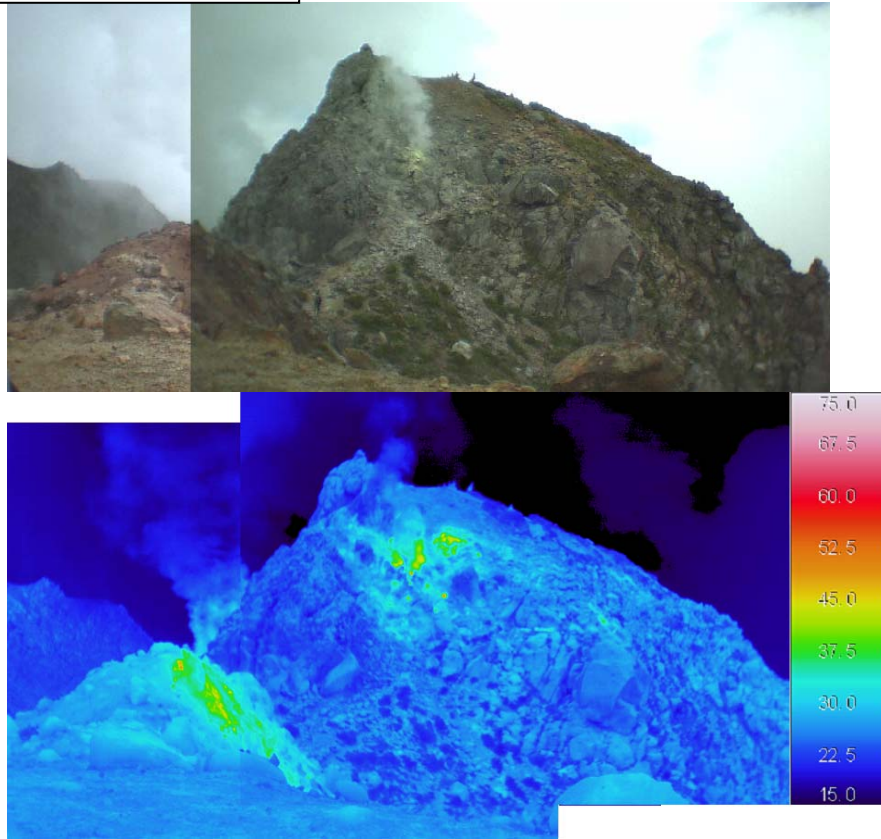


図 2 焼岳 北峰南側噴気孔の状況、及び北峰南斜面周辺の地表面温度分布¹⁾

噴気孔からは高さ 20m ほどの噴気が確認されました。前回（2008 年 6 月 7 日）と比較して、高温領域に特段の変化は認められませんでした。

2011 年 8 月 5 日 11 時 25 分撮影



2008 年 6 月 7 日 11 時 25 分撮影

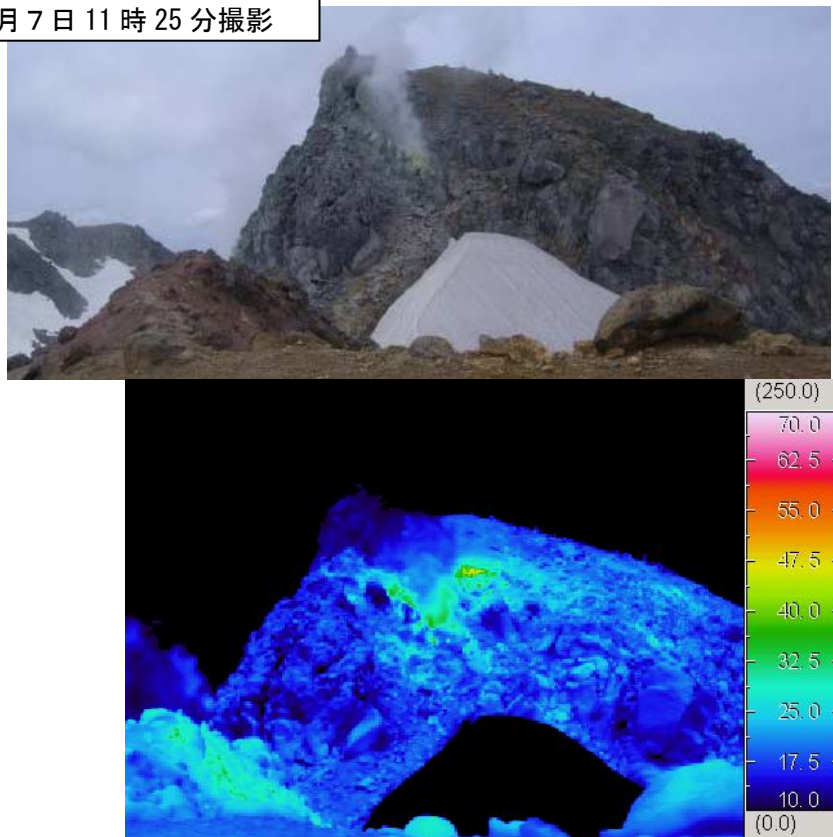
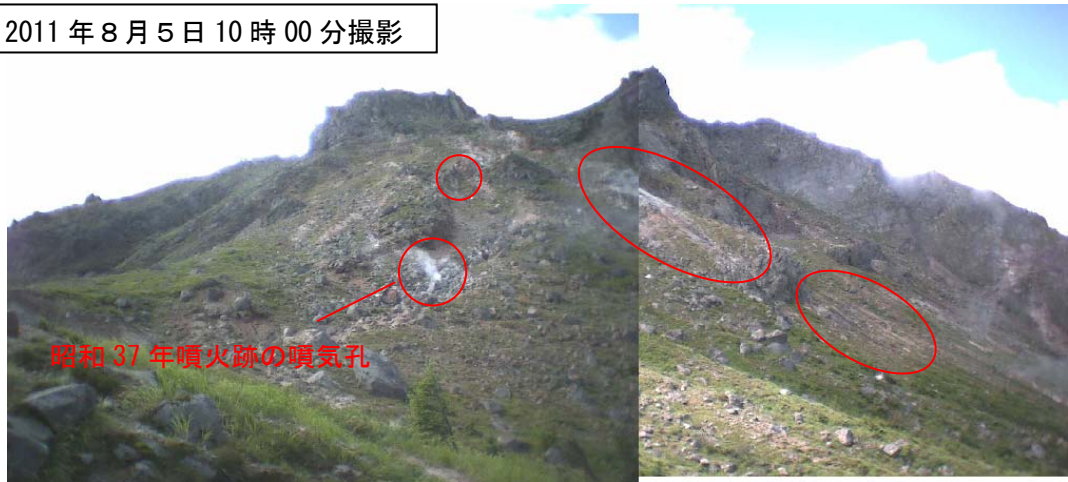


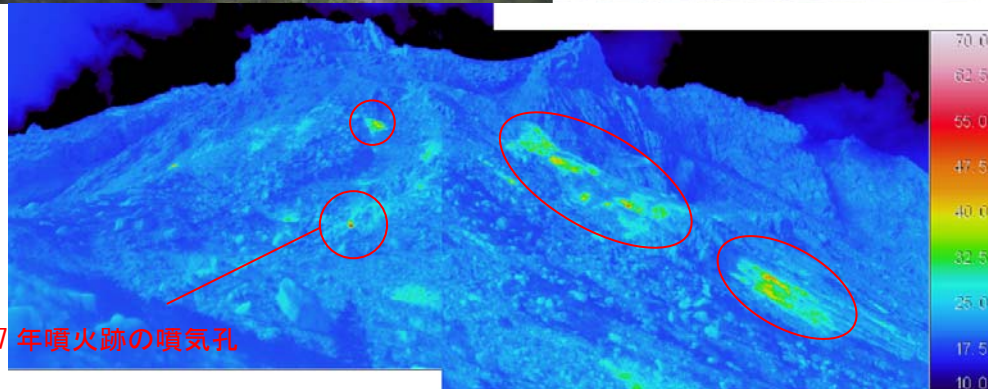
図 3 焼岳 北峰東側噴気孔の状況、及び北峰東斜面周辺の地表面温度分布¹⁾

噴気孔からは高さ 10m ほどの噴気が確認されました。前回（2008 年 6 月 7 日）と比較して、高温領域に特段の変化は認められませんでした。

2011 年 8 月 5 日 10 時 00 分撮影



昭和 37 年噴火跡の噴気孔



2008 年 6 月 7 日 10 時 20 分撮影

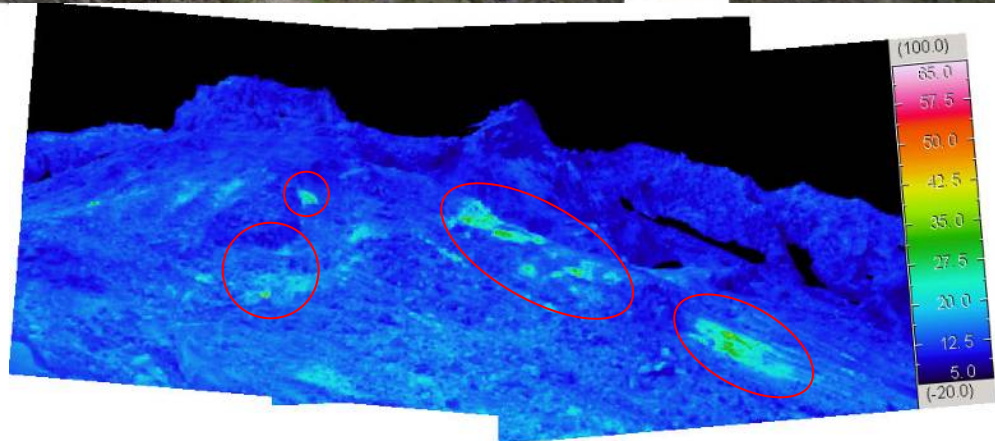
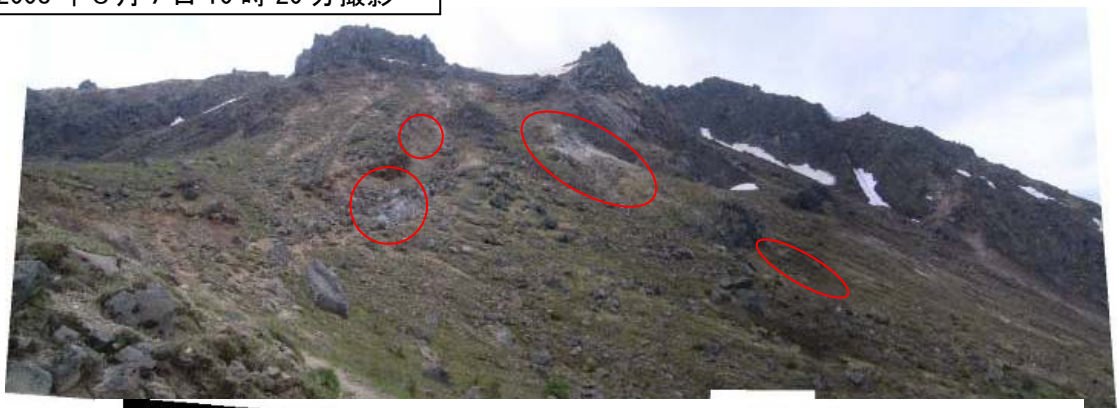


図 4 焼岳 昭和 37 年噴火跡噴気孔、及び焼岳北斜面周辺の地表面温度分布¹⁾

昭和 37 年噴火跡の噴気孔からは高さ 4 m ほどの噴気が確認されました。前回（2008 年 6 月 7 日）と比較して、高温領域に特段の変化は認められませんでした。

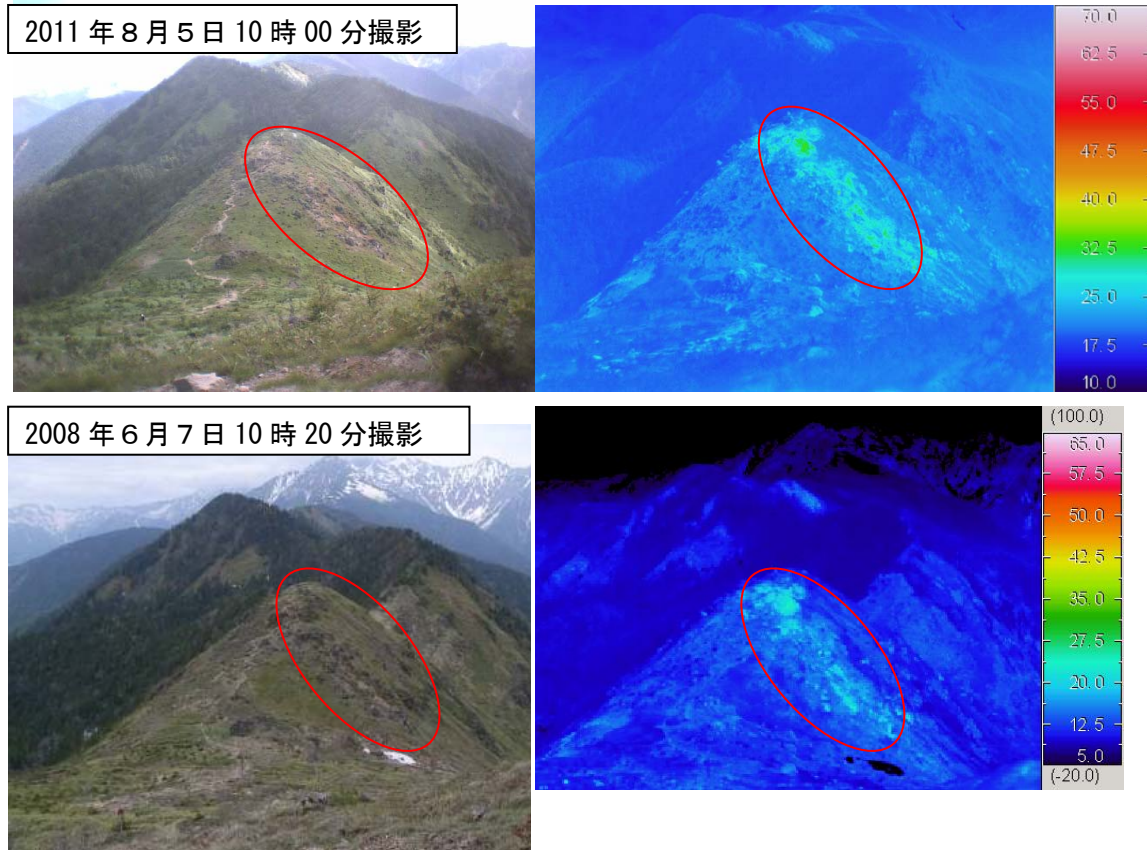


図 5 焼岳 焼岳展望台南斜面周辺の地表面温度分布¹⁾

噴気孔からはごく弱い噴気を確認されました。前回（2008 年 6 月 7 日）と比較して、高温領域に特段の変化は認められませんでした。

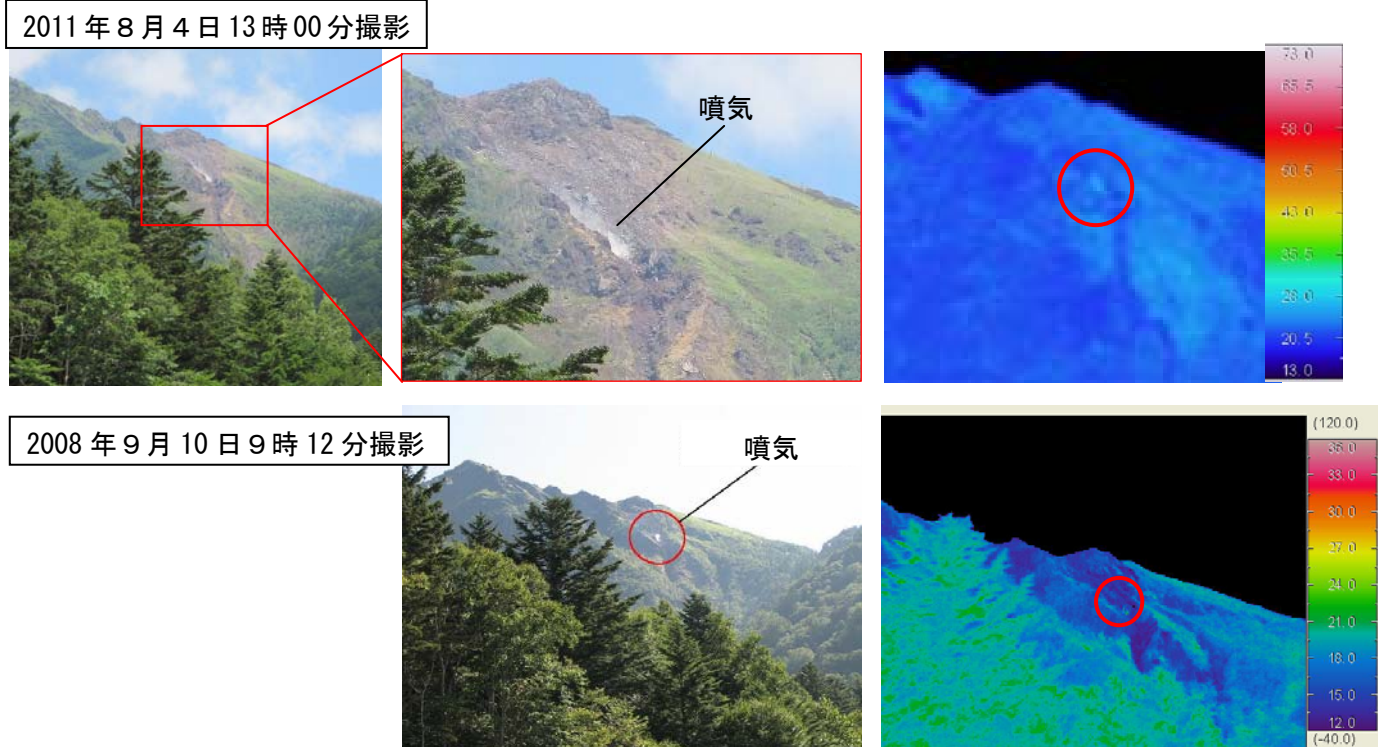


図 6 焼岳 岩坪谷噴気孔の状況、及び地表面温度分布¹⁾

岩坪谷噴気孔からは高さ 10m ほどの噴気を確認されました。また前回（2008 年 9 月 10 日）と比較して、高温領域に特段の変化は認められませんでした。

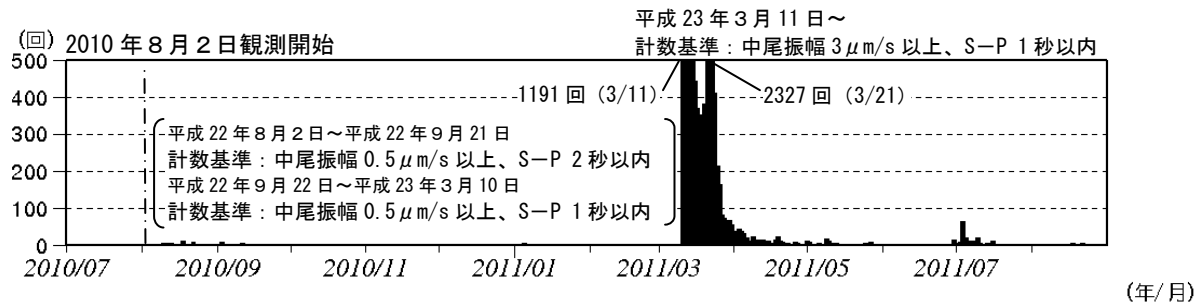


図 7 焼岳周辺の日別地震回数（2010 年 7 月 1 日～2011 年 8 月 31 日）

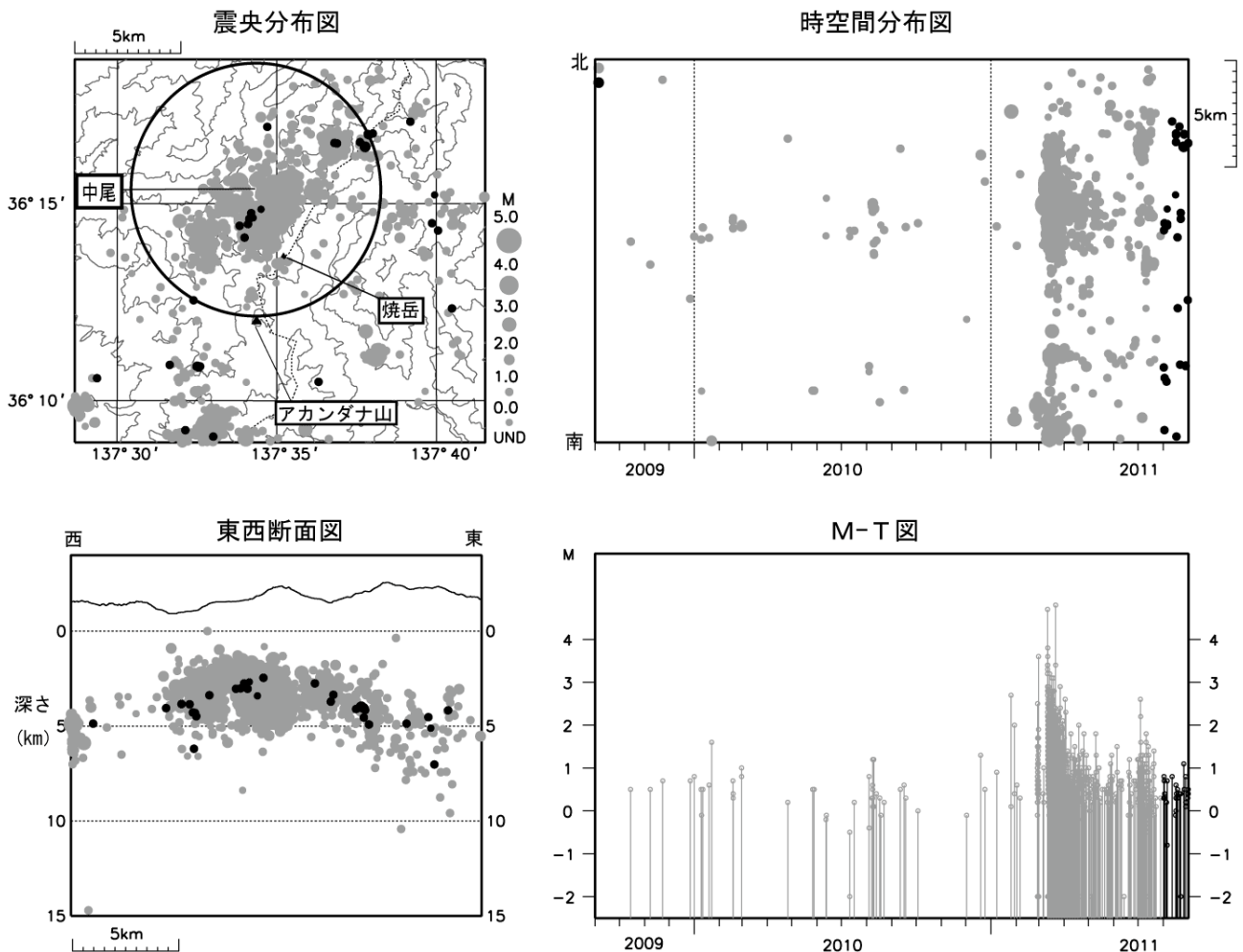


図 8※ 焼岳 広域ネットによる山体・周辺の地震活動(2009 年 9 月 1 日～2011 年 8 月 31 日)

● : 2009 年 9 月 1 日～2011 年 7 月 31 日

● : 2011 年 8 月 1 日～8 月 31 日

震央分布図中の円は図 7 の計数対象地震（中尾で S-P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示します。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

3 月～5 月分は一部未処理の期間があります。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。